

バイタルリアクター施術における評価

Evaluation on the Vital-reactor operation

CS11 今村 優汰
指導教員 大藤 晃義 教授

1. 緒論

バイタルリアクターを用いた治療法が、バイタルリアクトセラピーである。カイロプラクターである Dr.ピアース(Dr.Walter Vernon Pierce)による技術を科学的に証明する為山崎雅文氏がコンピュータを搭載した医療装置によって治療効果を分析・証明できるようにした医療器がバイタルリアクターである[1]。

2. 研究のアプローチ

日本でカイロプラクティックは国家資格として認められていない。また、カイロプラクティックの効果はX線装置などを用いなければ体感でしか認識することができない。そこで、バイタルリアクターや複数の検査機器を用いて施術の効果を数値化することにより、誰でも簡単に施術の効果を認識できるようにすることが本研究の目的である。

その方法は、バイタルリアクターで施術をした後に summary を選択し、表示されたページの Fixation を記録する。その値で、落差アンバランス率と平均アンバランス率という二つの比較方法を使いグラフを作成する。その他にも三つの計測機器で、血流や力などに変化があるかを確認する。

3. 結果

下記の計算で、一つ前の椎骨との差による落差アンバランス率を求める。

$$\frac{\text{落差アンバランス量の平均値}}{\text{Fixation 量の平均値}} * 100[\%]$$

この計算を行い、施術前と施術後の落差アンバランス率を求める。施術前の落差アンバランス率から施術後の落差アンバランス率を引いたものを改善率として作成したグラフが図1である。

平均アンバランス率は Fixation の平均から関節の硬さを引く計算を頸椎は合計 8 回、胸椎は合計 12 回、腰椎は合計 10 回絶対値で行う。次に下記の計算を行う。

$$\frac{\text{頸椎(胸椎、頸椎)の計算結果の合計}}{\text{Fixation 量の平均値}} * 100[\%]$$

上記の計算を行い、施術前の計算結果から施術後の計算結果を引いたものを、平均アンバランス率の改善率として作成したグラフが図2である。

図1と図2は横軸を前アンバランス率、縦軸を改善率とし、線形近似曲線を求めてグラフを作成したものである。

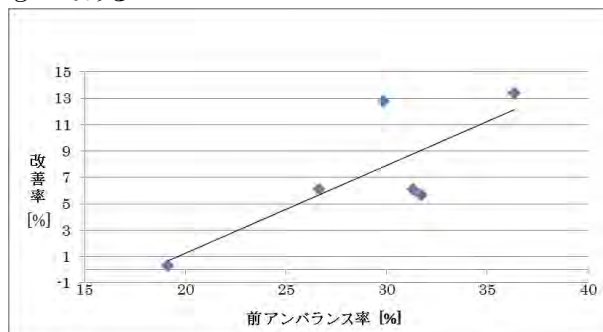


図1 落差アンバランス率で求めた改善率

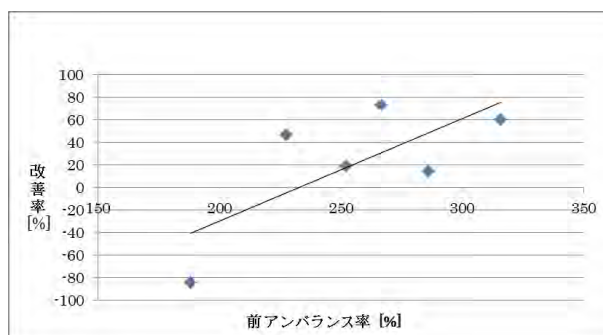


図2 平均アンバランス率で求めた改善率

4. 結論

図を見ると前アンバランス率が低い人ほど改善率が低く、前アンバランス率が高い人ほど改善率が高くなっている。すなわち、体の調子が悪い人ほどバイタルリアクターによる施術の結果が高いことがわかる。線形近似曲線が右肩上がりになっているのでバイタルリアクターによる施術の効果があるということが実証された。

5. 今後の発展

研究の結果を出すためにグラフを作成したのだが、全て手作業でやったので、複数人の結果を出すのが非常に面倒だった。なので、誰でも簡単に使えるようにプログラムを作成する必要がある。

文献

- [1] 「バイタルリアクトセラピーとは - 画期的な治療法バイタルリアクトセラピー VitalReactTherapyAssociation」
<<http://www.vitalreact.com/ws.html>>